



〔二〕昭和五年九月九日【水曜日】  
馬鈴薯栽培法  
石城分場 矢ヶ崎謹  
次には土寄せであるが、  
よせは馬鈴薯栽培上、重要な  
作業であつて、その巧  
收量、品質等になる影響  
はするものである。土寄せ  
肥と共に栽培中二回位行  
肥と共に栽培中二回位行  
よい、第一回は下種後約  
月後即ち發芽後で、第二回  
第一回の土よせ後約一ヶ月  
である土よせの際には必ず  
耕耘、除草が伴ふことは云  
でもない、従つて中耕によ  
て土壤を膨軟ならしめ、收量を増加  
せるものである、又勢ひ土  
分解を促がし、根部を健全に保  
切斷するために細根の發生を抑  
止するため排水を良好にし、  
よせのために栽培後風雨の  
ため表土が洗ひ出されて芋が半  
表に露出し、光線による表  
土よせによる病害の芋に傳  
綠化を防ぐことになり、更  
度病の發生する處では、病  
の落葉による病菌の芋に傳  
することを、覆土によつて防  
することにもなるのである。  
土よせに際してその土よせ  
の深さ、土よせの時期等が  
程度によつて異なるもので  
あらう、土よせの深さは土質  
による關係を有するもので  
ある、土よせの深さは土質  
の深さ、土よせの時期等が  
ければならないので一般に  
質土の如き重土は浅く、砂  
壌土の如き軽土は稍深目に  
するには勢ひ畦の中間を深  
断し且つ乾燥に過ぐるため  
量を減ずる恐れがある、